

□講義科目(専門科目)

科目名	地域福祉論	2単位
担当者	野口 定久(非常勤教員)	
テーマ	地域コミュニティの充実と未来の地域福祉学	
科目のねらい	<p><キーワード> 包容社会、社会構想学、福祉コミュニティ、コミュニティソーシャルワーク、地域包括ケア、多職種連携</p> <p><内容の要約> 新型コロナウイルス感染症を含めた、新たな福祉問題(社会的リスク)は、そのほとんどが地域コミュニティの「場」で発生している。グローバル化とローカル化が同時に進行する中では、これらの福祉問題を地域コミュニティにおいて総合的に解決する方法が求められている。これからの超高齢少子人口減少社会を支える地域福祉の政策と実践、地域再生計画、居住福祉のまちづくり事例、コミュニティケア・小規模多機能施設、家族やジェンダー等の対象テーマをめぐって、3つの理論(ソーシャル・キャピタル、ローカル・ガバナンス、コミュニティソーシャルワーク)を中心に講義を組み立てる。また、各地の地域福祉及び居住福祉の実践事例に学びながら、地域独自の政策や実践を計画化し、地域包括ケアをマネジメントする理論と手法を追及する。</p> <p><学習目標> ①地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶことができる。 ②各地の住民主導型の地域福祉計画の策定および推進方法を具体的に学ぶことができる。 ③地域の資源を活用した社会的企業およびコミュニティ・ビジネスの実践例等を参考に、地域再生の方法論について学ぶことができる。 ④包摂型福祉社会の推進をリードする地域福祉専門職のコミュニティソーシャルワーク、ソーシャルアクション、地域資源開発、個別問題解決等の活動方法論を学ぶことができる。 ⑤居住福祉社会の実現に向けた具体的な事例を学ぶことができる。 ⑥コミュニティソーシャルワーク事例研究法から多職種連携のためのアセスメントの方法を学ぶことができる。</p>	
授業の進め方	1講 人口減少社会の地域福祉 2講 地域福祉の理論と構成 3講 地域福祉運営の理論と実際 4講 地域ケアの政策と対応システム 5講 社会福祉サービスのデリバリー・システム 6講 地域福祉の主体形成 7講 住民福祉活動の進め方 8講 ボランティア活動等の実態把握 9講 地域福祉の人材養成 10講 地方分権と地域福祉 11講 地域福祉の政策と計画 12講 社会福祉調査の理論と方法 13講 地域福祉計画の策定戦略 14講 地域福祉計画と住民参加 15講 地域福祉計画の策定過程:計画の策定プロセス/策定モデル1-都市部/策定モデル2-山間部	
事前学習の内容 学習上の注意	この講義は、パワーポイントを用いたビジュアルな情報伝達と実地研究による現場の思考が教材です。現場の事象⇒経験知⇒形式知⇒実践知の研究方法論を用います。分断社会から包容社会への転換を主テーマに、世界の経済情勢、地域文化、家族関係、生活習慣等の相違点や共通点など新聞や書籍、IT 等から情報を収集するように努めてください。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと方法、福祉教育方法論	
テキスト	野口定久『ゼミナール 地域福祉学-図解でわかる理論と実践』中央法規、2018年	
参考文献	野口定久『人口減少時代の地域福祉』ミネルヴァ書房、2016年 岩田正美監修:野口定久・平野隆之編著『リーディングス日本の社会福祉 6 地域福祉』全400頁)日本図書センター、2011年	
成績評価 方法と基準	中間レポート3回(10点×3回 A4×1枚)、最終レポート(50点×1回 A4×3枚)、講義・演習等での発言など出席の姿勢(20点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	